どこを楽しむ、どこで遊ぶ

― 廿日市の自然に会いに行く ―

これからはレジャーの季節、
山登りからキャンプまで、廿日市の登山スポットと周辺の観光施設を紹介。

※①は施設名、②は問合せ

廿日市の最高峰

安芸冠山

標高：1,339m

Mt.Akikanmuri

「ひろしま百山」の一つとして紹介され、国定公園でもある冠山は、雄大な景観で植物学的にも珍種に富み、南に広がる冠高原には広島県の天然記念物レンゲツツジが群生している。

頂上からの眺め

①もみのき森林公園　②☎⑰2011

アスレチックジムやサイクリングコース、テニスコートなどさまざまなアウトドア体験を楽しむための施設。

登山口には駐車場があり、頂上までの道はほとんど森の中。強い日差しをさえぎってくれ、夏の登山でも快適。山頂の巨岩からは360度のパノラマが望める。

山頂の巨岩からは360度の展望

大峰山

標高：1,050m

Mt.Omine

①道の駅スパ羅漢　②☎⑫2221

保養施設「スパ」をメインにした道の駅。小瀬川の上流、羅漢峡から古くより湧き出る温泉に入浴することができる。

①岩倉ファームパーク　②☎⑫0449

小瀬川の清流と森林に隣接したオートキャンプ場。小瀬川での川遊びに最適で、温泉へのアクセスも便利なことから人気。

写真__1　森の中のため、日光がさえぎられる。
写真__2　大峰山。

頂上には瀬戸内海を一望する山寺

極楽寺山

標高：693m

Mt.Gokurakuji

写真は頂上からの眺め

田園風景に囲まれた、極楽寺山のふもとにある温泉施設。露天風呂や打たせ湯、サウナなど、７種類の風呂を四季折々の風景を眺めながら楽しめる。地元食材を堪能できる食事処や宿泊施設をはじめ、体育館、研修室といった集いのスペースも充実。

①極楽寺山温泉アルカディア・ビレッジ
②☎㊳2221

山頂には由緒ある極樂寺。ふもとから境内までの参道は中国自然遊歩道として整備されている。道中は樹齢500年以上のモミの原生林に包まれ、まさに霊山の様相を呈している。

①宮浜べにまんさくの湯　②☎㊿0808

日帰り温泉を楽しむことができる、大野瀬戸の開放的な雰囲気が味わえる温泉施設。多彩なお風呂があり、すべての浴槽から風光明媚（めいび）な瀬戸内海、宮島の景色を望むことができる。

目前には安芸灘の多島美

経小屋山

標高：596m

Mt.Kyogoya

森林公園経小屋山の展望台からは、東に広島市、西に岩国市を一望できる。そして目の前には宮島と安芸灘の多島美が壮大に広がる。頂上は公園として整備されているため車で行くこともできる。

写真__1　経小屋山
写真__2　頂上からの眺め

特集
今、自然を思う。

写真は宮島弥山展望台からの眺望。

「観る目」を育てる

**海から山まで、自然豊かな廿日市。
どれだけこの自然を理解し、知っているだろうかー。**

「まだ地域には気付かれていない財産がたくさんあります。それを再認識することがエコツーリズムの始まりです」と話すのは瀬戸内海エコツーリズム協議会理事長の上嶋さん。

同会では瀬戸内海を対象とした新たな「環境観光」として、エコツアーを企画し、環境保全や地域社会の活性化に取り組んでいる。

「エコツーリズムというとまだ聞きなれない言葉かもしれません。観光というとその地域の名所を訪ねたり、買い物をしたりといったイメージがあります。対して、自然を探訪するツアーや地域の風土・文化などを体験するものをエコツーリズムといいます。また、里山や海辺がエコツアーの対象になり観光客が訪れれば、その地域が潤い、良い循環が生まれます」と上嶋さん。

廿日市には山陸部から海岸部があり、特に宮島は原始林の姿を残したまま、現在まで至る。また、平成24年にはミヤジマトンボの生息する湿地がラムサール条約に登録され、国内外から注目を集めている。

「まず自分の住んでいる地域の環境を知ることが大切です。自然の生態系を知ることで、自分が観光で他の土地を訪れた時、その地域の良さも知ることができます。また、環境を知れば、それを保全することの大切さも分かるようになります」と上嶋さんは話す。

これからの季節、多くの人が週末に森の中を歩いたり、海辺で過ごすようになる。そのとき大事にしてほしいのは、その環境に興味を持つということ。例えば、海辺を散歩するときに、どんな生物がいるか、どんな植物が生えているのかなどを観る。地域によって環境の景観は異なり、新たな発見をすることが自然を「観る目」となる。この「観る目」を育てることが大切だと上嶋さんは語る。

「自分の住んでいる地域の環境の良さを話せることが理想です。まずは、いろいろなところを訪れてみましょう。特に子どもたちの『生きる力』を育むためには、自然や社会の現実に触れる実際の体験が必要です。五感で感じ、舌で味わう。その大切さを知ることは、とてもいい経験になるでしょう。しかし、その前には大人がその環境を理解しなければいけません。廿日市の自然の良さを伝えられるといいですね」と上嶋さんは笑顔で話してくれた。

写真__1　瀬戸内海エコツーリズム協議会の企画した外国人対象の宮島エコツアーの様子。海岸沿いの岩場や干潟に生息する生物の観察やウオーキングを通し自然環境への理解を深めた。 **写真__2**　宮島の湿地に生息するミヤジマトンボ。環境省と広島県の絶滅危惧Ⅰ類に分類されている。

瀬戸内海エコツーリズム協議会
理事長　上嶋（うえしま）　英機（ひでき）さん